



JAPANESE B – HIGHER LEVEL – PAPER 1
JAPONAIS B – NIVEAU SUPÉRIEUR – ÉPREUVE 1
JAPONÉS B – NIVEL SUPERIOR – PRUEBA 1

Thursday 8 May 2003 (afternoon)

Jeudi 8 mai 2003 (après-midi)

Jueves 8 de mayo de 2003 (tarde)

1 h 30 m

TEXT BOOKLET – INSTRUCTIONS TO CANDIDATES

- Do not open this booklet until instructed to do so.
- This booklet contains all of the texts required for Paper 1 (Text handling).
- Answer the questions in the Question and Answer Booklet provided.

LIVRET DE TEXTES – INSTRUCTIONS DESTINÉES AUX CANDIDATS

- Ne pas ouvrir ce livret avant d’y être autorisé.
- Ce livret contient tous les textes nécessaires à l’épreuve 1 (Lecture interactive).
- Répondre à toutes les questions dans le livret de questions et réponses.

CUADERNO DE TEXTOS – INSTRUCCIONES PARA LOS ALUMNOS

- No abra este cuaderno hasta que se lo autoricen.
- Este cuaderno contiene todos los textos requeridos para la Prueba 1 (Manejo y comprensión de textos).
- Conteste todas las preguntas en el cuaderno de preguntas y respuestas.

A

データに見る「夏休み」

読者のみなさまから寄せられた「夏休みの過ごし方」アンケートの結果です。表をごらんください。(1)週間程度の休みを取って、予算を(2)万円以内におさえ、近場に旅行に行く、というのが平均的な夏休みの過ごし方ようです。

帰省*を含めて、やはり夏休みの最大行事は「旅行」で、(3)割を占めました。でも、海外に出かける方は1割もいませんでした。行き先も、中国、韓国といった近場が中心で、遠くてもマレーシア、ハワイくらいまで。

予算は3人に(4)人が10万円以下でした。5万円以下の方の多くは帰省です。「初めて夫の実家へ帰省。交通費がかかりますが、実家でおこづかいをもらえると予定しています」(東京の27歳女性)という、「ちゃっかり」回答もありました。

さて、「その他」は大きく2つのタイプに分かれます。「(5)」派と「(6)」派です。前者の例としては、「賃上げはゼロ。残業も減り、お金なし。家族で家のリフォーム。玄関ドアの塗り替え、植木の植え替え、窓の修理をする」

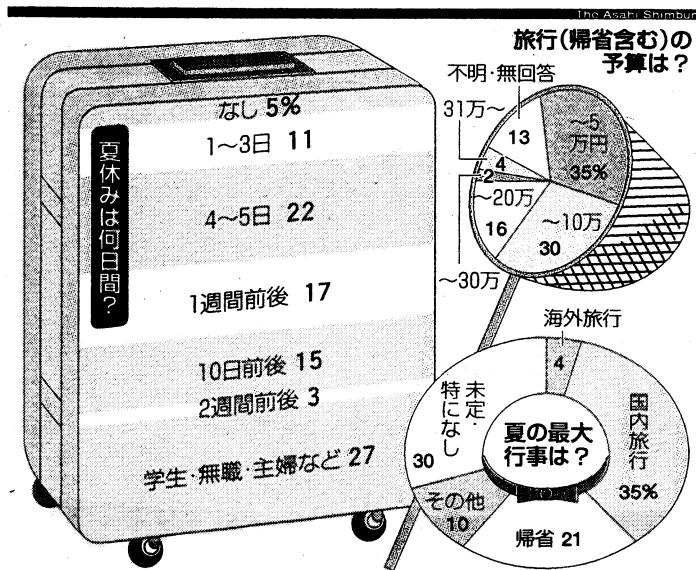
(京都の45歳男性)、「夫は家の補修と片付け、そうじ、わたしは台所のそうじとパソコンの中身の整理です」(神奈川の41歳女性)など。

後者は「パソコンインストラクター試験に向けて、計算ソフトの勉強」(大阪の52歳男性)、「約10日、パソコン教室に通う」(兵庫の48歳女性)、「通信大学の試験とスクーリング」(東京の39歳女性)といった回答が寄せられました。

勉強という意味では、こんな声も届きました。「子どもの夏期講習でどこにも行きません。あと5年はこの状態が続く。」(静岡の49歳男性)。「予定なし」の中には、「子どもが受験のため」という理由が最も多かった(7)。

最後は、「元気な話」¹⁰をどうぞ。「来年、定年退職をひかえて、人生およびキャリアについて振り返る良い機会だと思う。国家試験の準備もしたい」(大分の61歳男性)。

それぞれの「自分をみがかく夏」¹¹があるようですね。(12)。



* 「帰省」^{きせい} 短期間、^{きょうり} 郷里や実家(父母のいるところ、自分が育ったところ)に帰ること

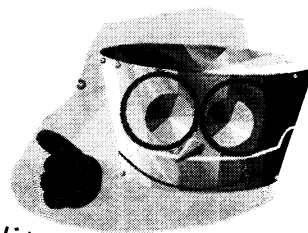
「切手ニュース」の中の1ページです。

B

13

今年は

原子^{もけい}模型を^{なご}発表^{なご}した物理学者の^{ながお}長岡^{はんたろう}半太郎、
 雪^{けっしょう}の結晶を^{なかや}研究^{うきちろう}した物理学者の^{なかや}中谷^{うきちろう}宇吉郎、
 繊細^{せんさい}で情感豊^{はい}かな句を (14) ^{なかむらていじよ}俳人^{なかむらていじよ}の中村^{なかむらていじよ}汀女。



- 日本の学術や文化の分野で大きな功績を残した人物をとりあげ、1992年から毎年発行されている。生誕など、その年が記念すべき年にあたる人たちが題材に (15) いるんだよ。
- ^{ながお}長岡^{はんたろう}半太郎 (1865～1950年) は、明治・大正・昭和期の物理学者。明治 36 (1903) 年に土星型原子模型を発表、後の原子模型の先駆*となった。また、金属学、地球物理学など多方面で活躍し、昭和 12 (1937) 年には第一回文化勲章*を受章したよ。平成 12 年は長岡半太郎の^{こうせき}没^{こうせき}後 50 年にあたるんだ。
- ^{なかや}中谷^{うきちろう}宇吉郎 (1900～1962年) は、昭和期の物理学者で、昭和 11 (1936) 年に人工雪の製作に成功したんだ。昭和 16 (1941) 年には、雪の結晶*形と成長条件との関係を示す中谷ダイヤグラムを発表し、雪の結晶の研究で日本学士院賞を受賞したよ。平成 12 年は中谷宇吉郎の生誕 100 年にあたるんだ。
- ^{なかむらていじよ}中村^{なかむらていじよ}汀女 (1900～1988年) は、^{たかはまきよし}高浜^{たかはまきよし}虚子に師事した大正・昭和期の俳人。的確な描写と繊細で情感豊かな作品を数多く発表し、昭和 55 (1980) 年には文化功労者となったんだ。平成 12 年は中村汀女の生誕 100 年にあたるんだ。



〈^{ながお}長岡^{はんたろう}半太郎の肖像と
原子^{げんし}モデル〉



〈^{なかや}中谷^{うきちろう}宇吉郎の肖像と
雪^{ゆき}の結晶^{けっしょう}〉



〈^{なかむらていじよ}中村^{なかむらていじよ}汀女の肖像と
俳^{はい}句〉

切手になっている物理学者、俳人は他にもいるよ。

- ^{にしなよしお}仁科^{にしなよしお}芳雄 (1990年 12月 6日発行) ラジオアイソトープ利用 50周年記念切手
原子核などの研究において日本の物理学の発展に重要な役割を果たした。
- ^{まつおぼしろう}松尾^{まつおぼしろう}芭蕉 (1987年 2月 26日発行) 奥の細道シリーズ第 1集〈芭蕉像〉切手
江戸前期に俳句を文芸的に完成させ、すぐれた紀行文や日記も残した。

* 「先駆 (さきがけ) 」他のものより先になることや、そうする人。

* 「勲章 (くんしょう) 」公共のために努力した人に国家がおくる賞の一種。

* 「結晶 (けっしょう) 」原子・イオン・分子などが規則正しく並んでできた多面体

C

文芸作品の一部です。

御釈迦^{しやか}*様は地獄^{じごく}*の容子^{ようす}を御覧になりながら、このカンダタには蜘蛛^{くも}を助けた事があるのを御思い出しに（ 25 ）。幸^{さいわ}い、側^{そば}を見ますと、翡翠^{ひすい}のような色をした蓮^{はす}の葉の上に、極楽^{ごくらく}*の蜘蛛^{くも}が一匹^{ひき}、美しい銀色^{ぎん}の糸をかけて（ 26 ）。

こちらは地獄^{じごく}の底^{そこ}の血^ちの池^{いけ}で、ほかの罪人^{ざいにん}と一しょに、浮^ういたり沈^{しず}んだりしていたカンダタでございます。

< 例 >.

カンダタはこれを見ると、思わず手を拍^うって喜^{よろこ}びました。この糸^{いと}に縋^{すが}りついて、どこまでものぼって行けば、きっと地獄^{じごく}からぬけ出せるのに相違^{さうい}ございません。いや、うまく行くと、極楽^{ごくらく}へはいる事さえも出来^{でき}ましょう。そうすれば、もう針^{はり}の山^おへ追い上げられる事もなくなれば、血^ちの池^{いけ}に沈^{しず}められる事もある筈^{はず}はございません。こう思いましたから³³カンダタは、早^{さつ}速^{そく}その蜘蛛^{くも}の糸^{いと}を両手^{りやうて}でしっかりとつかみながら、一生^{いっせい}懸命^{けんめい}に上^あへ上^あへとたぐりのぼり始めました。

< a. >

ところがふと気がつきますと、蜘蛛^{くも}の糸^{いと}の下^{した}の方^{かた}には、数^{かず}限^{かぎり}もない罪人^{ざいにん}たちが、自分ののぼった後^{あと}をつけて、まるで蟻^{あり}の行列^{ぎやうれつ}のように、やはり上^あへ上^あへ一心^{いっしん}によじのぼって来るでは（ 27 ）。

< b. >

そこでカンダタは大きな声を出して、「こら、罪人^{ざいにん}ども。この蜘蛛^{くも}の糸^{いと}は己^{おれ}のものだぞ。お前^{まへ}たちは一体^{いったい}誰^{たれ}に尋^{たず}いて、のぼって来た。下^{くだ}りろ。下^{くだ}りろ。」と喚^{わめ}きました^{34/35}。

< c. >

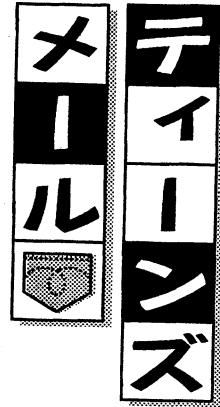
後^{あと}にはただ極楽^{ごくらく}の蜘蛛^{くも}の糸^{いと}が、きらきらと細^こく光^{ひかり}りながら、月^{つき}も星^{ほし}もない空^{そら}の中途^{ちゆうと}に、短^たく垂^たれている³⁶ばかりで（ 28 ）。

< d. >

- * 「釈迦^{しやか}」紀元前のインドで仏教^{ぶつこう}を始めた人。極楽^{ごくらく}にいと考^{こう}えられている。
- * 「地獄^{じごく}」仏教^{ぶつこう}の考^{こう}えで、悪事^{あくじ}を重ねた者が死^し後^ご落^おちて責^せめ苦^くを受けるところ。
- * 「極楽^{ごくらく}」仏教^{ぶつこう}の考^{こう}えで、どんな苦^くしみもない安楽^{あんらく}の世界^{せかい}。

D

今週は TETSUYA さん (ミュージシャン) に聞く



熊本県 (女性・16歳・高校生)

私はよく両親から「普通じゃない」と言われます。初めて言われた時はとても傷つきました。今でも、言われて気にせずにはいられない言葉ではありません。でも一体、人が言う普通って何なんでしょう。私は今高1です。入学してから、あまり学校に行かなくなりまして。親からすれば、そこがまず普通でないのでしょう。社会には決められた基準というものが存在します。でも

私なりに生きているのに

(38)

それはあくまで基準であって、普通ではないと思います。どうして人はそれをかんでいってしまうのでしょうか。学校に行かないから「私」という存在が「普通」ではないのでしょうか。認めてはくれないのでしょうか。私は私なりに生きているのに「普通じゃない」と言われるのは胸が痛いです。何が普通なんですか。私にはわからないです。



親は職業ではなく、本能で行動する役割です。ですから、考える前に反射的にものを言ってしまうことが時々あるのです。

たとえば、群れから子象がはぐれそうな時、親象はどうするでしょう。群に戻れないことはイコール死を意味しますから、あれこれ考える前に子象のしりを鼻先で押してやって、強引に群に戻ってしまうはずなんです。

あなたの親が本能で言うてしまう「普通」は、ちょうどこの象の群れにあたります。うちの子が群れからはぐれて何かおかしなことを始めてしまった。さあ、大変だ、あれこれ考える前に、ホレ、鼻で押してやんないと。ガミガミガミ、普通じゃないわよ!

確信持てば気にならなくなる

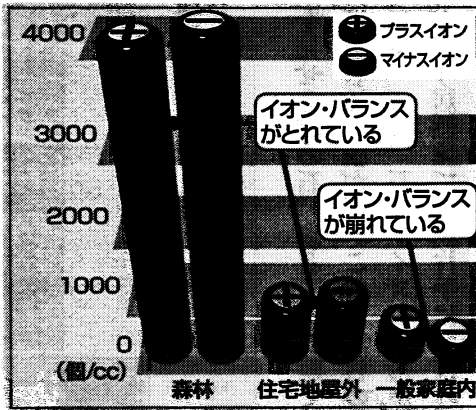
しかし、人間は象と違って創作する生き物ですから、群れからはぐれることで自分の生き方をつかむこともできます。「普通じゃない」と言われるぐらいで初めて成り立つ表現や仕事もあるわけです。

ひよつとしたらあなたは、これから先のことがあまりに不鮮明なのではないですか。だから親の言葉が気にさわる。あなたが未来に通じる何かを確信を持って始めた時、そういった本能言葉はさほど気にならなくなると思います。

僕は高さ50センチのモヒカンの頭のころ、よく女子高生に「バツカそう〜」と言われました。でも、パキパキが好きなだけだったので、そういった侮蔑の言葉ですら、未来から降りかかる桜吹雪のように美しく感じられました。

E

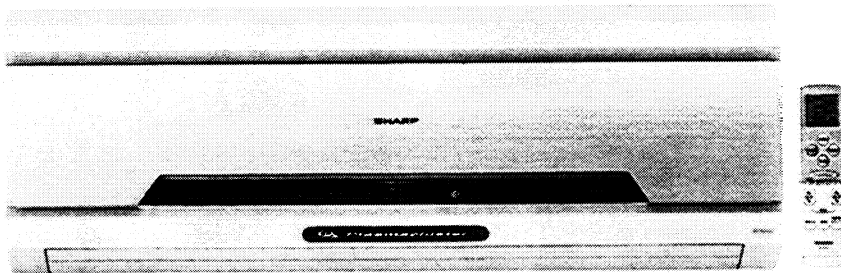
森林ではイオン・バランスがとれ（ 52 ）、量も多い。しかし、一般家庭の屋内ではプラズマイオン、マイナスイオンのバランスが悪く（ 53 ）、それぞれの量もとても少ない。



プラズマクラスターイオンとは、プラスとマイナスのクラスター（集合体）イオンが、空気中のカビ*やいやなおいになる物質を吸い取って分解するという、世界初の空気浄化*技術だ。空気中のイオンのバランスを整え、49リフレッシュできる空間に変えてくれるという。

きれいな空気を吸える場所といえば思いつくのが森林。左図のように、森林の空気は、イオン量は1ccあたり（ 51 ）個以上のプラスとマイナスイオンがあり、バランスよく存在している。これが人間にとって、きれいでおいしい健康的な空気だ。逆に、一般家庭内ではイオン量がとても少なく、バランスがくずれている。

プラズマクラスターイオン搭載の快適生活商品



エアコン (AY-N28XC) ↑

室内機のルーバーを丸ごとはずして簡単にそうじできる機能や、最新の省エネルギー設計など、快適機能でいっぱい。カラーはプラチナホワイトとプラチナグレーの2種類。冷房8~12畳、暖房9~11畳。部屋の広さに合わせて選べるバリエーションは6種類。別売りの除湿機もあります。

* 「カビ」微細な生物で、食べ物などの表面に青、黒、白、赤などの集合体をつくる
* 「浄化（じょうか）」きれいにすること